

本当の笑顔

熊谷あけみ

愛知県・三五・主婦

初めて出逢った時、あなたは妻帯者でした。どんなに楽しい話題でも、お腹を抱えて笑うことのない笑顔はとても寂しそうで「私ならあなたに本当の笑顔をプレゼントできるのに」と生意気なことを考えたものです。

そんな風に思ったのも、私自身が孤独だったからでしょう。一人が怖くて、誰かにすがりたくて、いつも物足りなかった。永遠に続くのではないかと思われるほどの暗く長いトンネルの中で、人の温もりを求めてもがいている。そんな私を救い上げてくれる人を、ずっと待っていたように思います。そして何よりあなたは、私と同じ目をして見えたのです。

あの時は、気持ちをきちんと確かめることができなかった。何となく確かめ合っただけではない気がしたから……。

あれから十数年の時が過ぎ、今ではお互い、思い出のほんの一幕となってしまうしたね。人知れず、でも確実に燃え上がっていた想い。過去の事とは言え、あの頃の気

持ちを言葉で伝えるのは、やっぱり恥ずかしいものです。肩に寄り添い、堂々と甘えられるほど若くはなくなってしまったけれど、いつもあなたと一緒にいたかった。

二人で歩いた夜、光り輝くイルミネーションは素敵でした。でも明るい太陽の日差しもいっぱい浴びたかったな。見た目より堅^{かた}かった私が、道徳心も常識もすべて忘れてしまっただけの人を好きになったのは、あなたが最初で最後です。だから後悔はありません。

今日やっと、苦しかったあの頃の私の想いが、日の光にさらされた気がします。最後に一つ聞いてもいいですか？

私^ががあなたと過ごした時間は、本当の笑顔をとり戻せましたか？